

## 中国料理はおいしい

4月23日 火曜日 天気晴れ

先週から予定していた中嶋氏主宰の午餐会。誰と一緒に良いかと相談され、例の韓国娘たちと食べようと言うことになった。金珉珠と韓美延。晨星は何故か入っていなかった。授業がはねた後、出かけたのは、私の生活の場でもあった宿舎の南側、大通りの黄河路に下る蘭玉街という生活道路。なだらかな坂道を下っていると、前方にフランス人学生のロイチとマティルダを見つける。学外でフランス語を教えていると聞いていたが、その帰りだった。昼と一緒に食べないかと、金珉珠が声をかけた。そうしようということになった。

「食」に保守的な私は、三度の食事はそれまでほとんど学外で食べたことはなかった。この国では「学校食堂」と呼ぶ学内の学食で、昼も夜も済ましていた。だから蘭玉街を利用するのは、朝食のパンと飲料水を買うため便利店と呼ぶコンビニに立ち寄るか、新鮮な果物を求めて果物屋に入る位だった。その前をいつも通っていた『来久東北菜館』という小さな食堂は、外見が見すばらしく入る気がしなかった。この日、初めてその店に入るようになった。

ここでも金珉珠がホステス役になった。その頃、口語の授業で中国料理の話が出てきた。四川料理の麻婆豆腐とか、宮保鶏丁(Gungbao Jiding)とかが好きと言う留学生の体験記だった。珉珠はメニュー(菜單)に宮保鶏丁を目ざとく見つけ、それを注文した。鶏肉とピーナッツに唐辛子を加えて炒めた料理で、食べてみて確かに美味しかった。その他、文字通り東北名菜の地三鮮というジャガイモ(土豆)の炒めも出てきたが、これらが大変旨い！おいしい料理を前に話がはずんだ。やはり中嶋さんが話の中心で、私は脇にまわった。隣を見ると、ロイチもマティルダも、ごく自然に打ち解けている。せっかくのクラスなのだから、もっとこうした会食などあればいいなとも思った。

『東北名菜館』は見た目と中身とがあまりにも違った。こういう店にこれからも来ようと思った。蘭玉街には、この他に、蘭州拉麺の『士林園』や、韓国料理の店、それに韓国系のおばさんが出すおいしい中華料理の店など、あることがわかって行った。その後も、昼と夜の食事は多く学校食堂を利用したが、段々と留学仲間が増えて行き、こうした外食で過ごすことも多くなった。中でも蘭州拉麺は、中国料理の中では珍しい「さっぱり系」で、これを食べるためによく出かけることになった。蘭州の地は西域の甘肅省の街の名だ。住民の多くは回教徒だが、この店『士林園』の店員さんも皆回教徒の回族らしく、頭には白い丸帽をかぶっていた。そこの青年、馬君とは話している中に結構仲良しになった。



**蘭州拉麵の店のチャーハンもさっぱりしていて美味。薄いスープには香草が浮かぶ。**

その他、栄養のバランスも良く、主に学校食堂で食べたのが、西紅柿炒鷄蛋(Xi Hong Shi Chao Ji Dan)。西紅柿はトマトのこと。それと卵焼をあえたもの。トマトの酸っぱみが、自分には好みだった。

3月末頃は、中華料理に食が進まなかった私だが、学外の食事がきっかけで、その評価は少なからず変更となった。中国料理は、やはりおいしい。